

海老沢達郎の教養講座

第9回 日本の政府債務残高 GDP 比、世界と比べて見ると (2021年12月15日)

今回は、日本の政府債務（国の借金）残高 GDP 比についてお話ししたいと思います。政府債務残高は通常、GDP 比で示されます。それは、GDP が「国の経済規模」を表すからです。日本の政府債務残高 GDP 比が大きいことは、皆さん、ご存知だと思いますが、今回は G7 諸国とオーストラリア、韓国の 9 カ国の GDP 比を 1990 年から 2020 年までの 30 年間について調べてみました。やはり、第 8 回の「日本の平均給与」の推移と同じような結果が得られました。下記の表 1（政府債務残高 GDP 比〈%〉）は、IMF（国際通貨基金）の資料を参考にして作成いたしました。日本の政府債務残高 GDP 比は、9 カ国の中で断トツの高さであり、ワースト 1 位であることが分かりました。それでは、詳しく見ていきましょう。



表 1 政府債務残高 GDP 比 (%)

| 国名 | 1990年 | 1995年 | 2000年 | 2005年 | 2010年 | 2015年 | 2020年 |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 日本 | 63 | 93 | 136 | 174 | 206 | 228 | 254 |
| イタリア | 101 | 119 | 109 | 107 | 119 | 135 | 156 |
| アメリカ | n/a | n/a | n/a | 65 | 95 | 105 | 134 |
| カナダ | 74 | 100 | 80 | 71 | 81 | 91 | 117 |
| フランス | 36 | 56 | 59 | 67 | 85 | 96 | 115 |
| イギリス | 29 | 44 | 37 | 40 | 74 | 87 | 104 |
| ドイツ | n/a | 55 | 59 | 68 | 82 | 72 | 69 |
| オーストラリア | 16 | 31 | 20 | 11 | 20 | 38 | 57 |
| 韓国 | 13 | 9 | 17 | 26 | 29 | 41 | 48 |

IMF: World Economic Outlook Database (October 2021)を参考にして作成

表1から、日本の政府債務残高 GDP 比は、1990年から右肩上がり、上昇していることが分かります。1997年に100%を突破(105%)致しました。100%が「国の経済規模」ですので、100%を超えると債務(借金)の返済が難しくなってきます。そして、2010年に200%を突破(206%)し、僅か13年の間に倍増したことになります。更に、2020年には250%を突破致しました。日本は世界1位の借金大国です。一方、ドイツを見ると、1995年にGDP比は55%で、2020年には69%と殆ど増えておりません。オーストラリア、韓国も上昇はしておりますが、低い比率になっています。何故、日本だけがこのように突出しているのでしょうか。それには理由がありますので、その理由の一つが、下記の表2の「日本のGDPの推移」を見れば分かります。IMFの資料を使用して、分かり易いように円換算で表示いたしました。

表2 日本のGDPの推移

| 年 | 円(単位:億円) |
|------|-----------|
| 1990 | 462兆8373億 |
| 1995 | 521兆6137億 |
| 2000 | 535兆4177億 |
| 2005 | 532兆5150億 |
| 2010 | 505兆5306億 |
| 2015 | 538兆0323億 |
| 2020 | 538兆6850億 |

IMF: World Economic Outlook Database (October 2021)を参考にして作成

日本のGDP(国内総生産)は、世界第3位で、経済大国と言われておりますが、これは人口が多いので、人口が少ない国よりは大きくなるからです。それでは、2020年のG7諸国・オーストラリア・韓国と中国・インドの人口とGDPをIMFの資料で調べてみました。

表3 各国の人口とGDP

| GDP 世界順位&国名 | 人口 (単位：万人) | GDP (単位：億米ドル) |
|-------------|---------------|------------------|
| 1位 アメリカ | 3億 2997万 | 20兆 8938億 |
| 3位 日本 | 1億 2582万 | 5兆 0451億 |
| 4位 ドイツ | 8316万 | 3兆 8433億 |
| 5位 イギリス | 6708万 | 2兆 7097億 |
| 7位 フランス | 6512万 | 2兆 6244億 |
| 8位 イタリア | 5964万 | 1兆 8849億 |
| 9位 カナダ | 3793万 | 1兆 6440億 |
| 10位 韓国 | 5178万 | 1兆 6383億 |
| 13位 オーストラリア | 2569万 | 1兆 3594億 |
| | | |
| 2位 中国 | 14億 1435万 | 14兆 8667億 |
| 6位 インド | 13億 7860万 | 2兆 6602億 |

IMF: World Economic Outlook Database (October 2021)を参考にして作成

表3を見ると、人口が1億人を超えているのは、アメリカと日本だけです。参考としてあげた中国とインドは人口が10億人を優に超えています。従って、人口が非常に多いので、世界第2位と第6位の経済大国となっています。一方、人口が3793万人と少ないのに、世界9位のカナダは経済成長が順調に進んでいる国だと思います。また、表2から、日本のGDPは、1995年の521兆6137億円から、2020年は538兆6850億円で、この25年間GDPが増加していないのが分かったことと思います。これは、25年間、日本の経済成長が停滞していることを意味しています。前回の「日本の平均賃金」がここ30年間殆ど上がっていないということが、これで証明されたわけです。

次に、2020年度の当初予算の一般会計歳入総額を調べてみました。

一般会計歳入総額 (102.7兆円)

| | | |
|----------|--------|---------|
| 租税及び印紙収入 | 63.5兆円 | (61.9%) |
| 主なものとして | | |
| 所得税 | 19.5兆円 | |

| | |
|-----|---------|
| 法人税 | 12.1 兆円 |
| 消費税 | 21.7 兆円 |

| | | |
|-----|---------|---------|
| 公債金 | 32.6 兆円 | (31.7%) |
| その他 | 6.6 兆円 | (6.4%) |

国税庁のホームページを参考にして作成

上記によれば、2020 年度の当初国家予算の約 1/ 3 が公債金（借金）で賄われております。金額にすると、32.6 兆円になります。相当の額の借金（国債の発行）をしないと、日本の国家予算は組めなくなっているということです。これは当初予算ですので、昨年はコロナ対策で補正予算を組み、更にかんりの額を国債発行（借金）しております（これは仕方ありませんが）。補正後の 2020 年度の予算は、当初の予算額の 102.7 兆円から 175.7 兆円に膨らみました。国債発行額は単年度で初めて 100 兆円を超えました。毎年多額の借金をして予算を組みんでいますので、借金は減らず、ますます増えていくことになり、「♪もう、どーにもとまらない」状態です。

財務省によれば、「1980 年代までは税収と歳出がそれほど大きくかい離しておらず、各年度の国債発行額は 15 兆円を上回ることはなかった。しかし、バブル経済の崩壊と長期の経済停滞で、度重なる財政出動や減税政策で収支は悪化、国債発行の増額で穴を埋めてきた」とのことです。また、財務省のホームページによると、下記のように 1990 年度と 2020 年度の政府歳入に占める公債金（借金）の割合を示しております。借金の割合は 6.8 倍に上昇し、ここ 30 年間に急増していることは明らかです。それに対し、税収などの収入は 1.2 倍しか伸びておりません。やはり、日本経済の停滞から来るものでしょう。

| | | |
|-----------------|---------|---------|
| 1990 年度歳入 | 税収などの収入 | 公債金 |
| 66.2 兆円 | 60.6 兆円 | 5.6 兆円 |
| 2020 年度歳入(当初予算) | 税収などの収入 | 公債金 |
| 102.7 兆円 | 70.1 兆円 | 32.6 兆円 |

しかも、総務省のデータによれば、2050年の日本の人口は9,515万人で、15歳から64歳の生産年齢人口が4,930万人(51.8%)、若年人口が821万人(8.6%)、65歳以上の高齢人口が3,764万人(39.6%)と予測しています。総務省のデータを参考にして下記のようにまとめてみました。

| | <u>2005年</u> | | <u>2050年</u> |
|--------|--------------|-------|----------------|
| 総人口 | 12,777万人 | ➡➡➡➡➡ | 9,515万人 |
| 若年人口 | 1,759万人 | ➡➡➡➡➡ | 821万人(8.6%) |
| 生産年齢人口 | 8,442万人 | ➡➡➡➡➡ | 4,930万人(51.8%) |
| 高齢人口 | 2,576万人 | ➡➡➡➡➡ | 3,764万人(39.6%) |

若年人口が大幅に減少し、一方、高齢人口が急増しているのがよく分かります。2050年(今から30年後)の人口構成等から考えて、生産年齢人口が大幅に減少に向かうのに対し、高齢人口が増加することになるので、社会保障費が膨らみ、逆に、大幅に減少している若年人口・生産年齢人口に、その負担がかかることは明らかです。朝日新聞によると、「政府の債務は国内総生産(GDP)の2.5倍を超え、戦費のために国債を乱発していた第2次世界大戦直後よりも高い水準だ」(2020年11月27日)と指摘しております。日本は世界第3位の経済大国であるにも関わらず、アメリカ、ドイツ、イギリス、ロシア、中国、インドのようにコロナのワクチンをいまだに開発できていないのはなぜでしょうか。それは、予算(金)がなく、巨額な研究開発費を投入することができないからだ、私は思っています。このままの状態が続くと、日本社会の未来は非常に厳しい状況になるのではないのでしょうか。国民一人一人が、このことをしっかりと理解することが肝要かと思えます。